



一隅を照らそう
10月号

381号
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp



十人十色

住職 中島 有淳

「暑さ寒さも彼岸まで」の諺どおり朝夕すっかり涼しくなり、境内の蟬の声もいつの間にか聞かれなくなり、秋の虫が鳴き始めています…。

季節の移り変わりをこうして感じられるのは何と素晴らしい事とうれしく思います。さまざまな生き物が、目には見えなくとも実際に身の回りにも存在している事が感じられるからです。

仏教ではよく「山川草木悉皆成仏」という言い方で表現されますが、過去・現在・未来に於いて、こうした世界が穏やかにながっていかねばよいと感じられるのです。

歌手のユーミン（松任谷由実）の「やさしさに包まれたなら」という歌に

小さい頃は神さまがいて 不思議に夢をかなえてくれた
やさしい気持で 目覚めた朝は
おとなになっても奇蹟は起こるよ
カーテンを開いて 静かな木洩れ陽の
やさしさに包まれたなら きつと
目にうつる全てのことは メッセージ

とあり、素晴らしい感性に驚かされます。私はこうした世界観に、日本の仏教的な内面の美と、やすらぎを感じます。

世界はいま二分されたような考え方で、対立の図式が蔓延しています。暴力、飢餓、誹謗中傷、嘘…と絶望的にさえ思われる出来事が多発していて、どこに救いや、心のやすらぎを求めたら良いのでしょうか。

仏教の歴史を遡ってみますと、お釈迦さまご自身にも、晩年、厳しい出来事があったと伝記にあります。

お釈迦さまは紀元前四八〇年の頃、八〇歳で入滅されましたが、当時としては大変な長寿でした。しかし晩年の出来事は幸福とは言いがたく、むしろ悲劇的であったと言われています。実はそれも深い因縁があったのです…。

まず祖国が隣国のコーサラ国の軍勢によって滅ぼされました。

お釈迦さまは自分が育った国を何とか救おうと努めました。果たせませんでした。更に後継者と考えていた舎利弗（シャリフ）が病死、目連（モッガーナ）が撲殺され、相次いでこの世を去ってしまいます。高弟を亡くした無念さにさぞ落胆した事でしょう。お釈迦さまといえども、どうすることも出来ない世界もありました。

そして最晩年には、長く活動の地であった王舎城を離れて故郷へと向かう途中、病を得、苦しみつつ弟子に見守られながら亡くなられるのです。

病人で老いた身体は、お釈迦さまといえどもどうすることもできません。そして最期に、遺言ともいうべき『もろもろの事象は過ぎ去るものである。怠ることなく修行をつとめ、つとめ励みなさい。』と結ぶのでした。

このことは、人として周囲と関わって生きている以上、肉体的、精神的に苦しみや悩みを一切伴わない生き方はあり得ない、という事なのでしょう。

折りふしのはな

マリーゴールド

黄色やオレンジの色鮮やかなマリーゴールド エネルギーに満ち 日の光に輝いて見えます 別名 千寿菊、万寿菊という おめでたい名前がついています
インド・ネパール・メキシコ キリスト教においてなど 花と宗教儀礼はずっと昔から 深い関わりがあるようです

(遊)



どなたさまでも
ご参詣下さい

月例行事案内

◎八 日 午後二時

薬師如来祈禱会 観音経読誦

◎十二 日 午後二時

智泉院法要日（於・日本橋茅場町）

◎十八 日 午後二時

観音経読誦法要（於・神木観音堂）

◎二十八 日 午後二時

不動明王護摩供修行

□祝・七五三お詣り （予約受付中）

*御札・御守り授与します

*毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております

ご都合のよろしい時には、ご一緒にどうぞ

○10/18 (土) 月例「止観(坐禅)会」
9:30~10:30 (要申込・500円)

○10/19(日) 坐禅で安産!
産前産後の妊婦さん向け坐禅会。
主催: 助産院バースあおば
10時集合(2,000円)

○10/23(木) 法華八講
『法華経』の連続講座の第3回。
講師は詩人の伊藤比呂美師。
13時~17時 (要申込50名・7,000円)

○10/26(日) お寺で!楽しむ女文楽
「ひとみ座」による伝統人形芝居の上演。
主催: (公財) 現代人形劇センター
開演14時(要申込40名・無料)
申込: 044-777-2228

あとがき

○自民党総裁選に五人（小林・茂木・林・高市・小泉）の各氏が出馬。国内外と調和のとれるリーダーが望ましいとは誰もが願うところでしょう。（十月四日投票）

○世界陸上の東京大会が大いに盛り上がりました。スポーツ観戦はアスリートの身体能力の高さに驚くばかりで、楽しいものです。○車いすテニスで小田凱人選手がパラリンピックと四大大会すべてに優勝する生涯グランドスラムを達成。その瞬間コート上で車いすごとひっくり返り喜びを爆発させていた姿は印象的でした。

○比叡山延暦寺の総本堂・根本中堂で、参拝者に法話する機会がお堂は改修工事中で、完成まであと数年は要するとの事。そして昨今のニュースで目にする参拝マナー悪化も目の当たりにし、社寺の維持管理の課題も感じました。（副住職）

○今年は酷暑がいつまで続くのかと辟易しましたが、秋彼岸を過ぎて曼珠沙華も咲き、急に涼しくなりました。季節は巡ります。ご自愛下さい。